

	農 産	2 1	麦	雑草防除
新技術・情報名	麦用除草剤 ハーモニー75DF水和剤の使用基準		分類	①

### 1. 成果の内容

#### 1) 技術・情報の内容及び特徴

麦用除草剤のハーモニー75DF水和剤は、これまで防除が困難であった1.5葉期以降のスズメノテッポウや一年生広葉雑草に対して高い除草効果を示すことが明らかとなった。本剤は平成4年4月に農薬登録が完了しており、下記の使用法により普及可能である。雑草の発生量が少ない場合は生育期の単用処理で除草効果は十分であるが、雑草の発生が多い場合及び播種直後除草剤の効果が不十分の場合に体系処理を行う。

#### (1) ハーモニー75DF水和剤の使用基準

使用法	対象作物	適用土壌	10a当たり 使用量	10a当たり 散布液量	処理時期	対象雑草
単用	小麦	壤土～埴土	7.5～10g	100ℓ	麦4葉期～	
	大麦	埴壤土～埴土			節間伸長前 但し	スズメノテッポウ及び
体系	小麦	壤土～埴土	5～7.5g		スズメノテッポウ	一年生広葉雑草
	大麦	埴壤土～埴土			5葉期まで	

#### (2) 使用上の注意事項

- ア 使用量が従来除草剤より極めて少ないので、取り扱いに注意する。
- イ 野菜等の周辺作物に薬害を与えるため、散布時のドリフトに注意する。
- ウ 散布に用いた器具類は使用後出来るだけ早く水でよく洗浄する。
- エ 大麦の節間伸長開始期頃の処理で減収することがあるので処理時期が遅くならないよう注意が必要である。

#### 2) 技術・情報の適用効果

雑草害が軽減し、麦の収量、品質の安定化を図ることができる。

#### 3) 適用範囲

県内全域

#### 4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

平成5年度主要農作物雑草防除基準に掲載する。

2. 具体的データ

第1表 除草効果及び小麦に対する薬害と収量

年次	試験場所	使用法	試験区	処理量	処理時期	残存雑草量対無処理区比率			薬害程度	精麦重比率
						スズメノテフウ	ヒメクサ	合計		
年			無処理	g/a	月日	(147.0)	(1.0)	(157.0)	—	79
昭63	農産研究所	単用	ハモニ-	0.75	12.13	1	12	1	微	97
			"	1.0	"	1	13	1	"	95
			"	0.75	1.5	7	29	7	"	98
			"	1.0	"	4	29	4	"	98
平元	農産研究所	単用	無処理	—	—	(50.0)	(6.0)	(66.9)	—	76
			ハモニ-	1.0	12.13	1	24	2	微	105
			"	1.25	"	t	10	2	"	106
			無処理	—	—	(27.0)	(13.9)	(50.4)	—	87
平2	筑後分場	単用	ハモニ-	0.75	1.8	30	15	45	"	102
			"	1.0	"	18	6	27	"	105
			"	1.25	"	11	9	18	"	104
			無処理	—	—	(2.4)	(22.8)	(25.4)	—	90
平3	農産研究所	単用	ハモニ-	0.5	1.18	11	12	11	極微	93
			"	0.75	"	6	9	6	"	95
			"	1.0	"	t	5	1	"	97
			"	0.5	2.8	29	15	28	"	94
			"	0.75	"	20	17	20	小	85
			"	1.0	"	23	17	22	"	86
昭62	筑後分場	体系	無処理	—	—	(300.0)	(26.9)	(331.0)	—	62
			トリアノ乳	25g	11.30	22	76	26	無	98
			(トリアノ乳)	0.75	2.3	15	7	15	"	93
			+	1.0	"	7	7	7	"	96
昭63	筑後分場	体系	ハモニ-	1.5	"	2	3	3	"	100
			無処理	—	—	(172.0)	(47.6)	(221.0)	—	71
			ハモニ-	1.0	1.25	3	2	3	無	96
			トリアノ粒	200g	11.28	18	32	22	"	82
平元	筑後分場	体系	(トリアノ粒)	0.75	1.25	t	1	t	"	98
			+	1.0	"	t	t	t	"	98
			ハモニ-	1.5	"	t	1	t	"	101
			無処理	—	—	(5.5)	(13.6)	(20.4)	—	92
平元	筑後分場	単用	ハモニ-	0.75	2.5	t	5	3	無	101
			トリアノ粒	200g	11.27	70	41	47	"	97
			(トリアノ粒)	0.5	2.5	5	1	2	"	99
			+	0.75	"	t	1	1	"	104
平元	筑後分場	体系	ハモニ-	1.0	"	0	t	t	"	102

注) ①試験区の( )は体系処理の場合の前処理。②無処理の残存雑草量は風乾重(g/m<sup>2</sup>)  
 ③品種は農産がニシカキ、筑後がニシカガ。④精麦重比率は完全除草に対する比率  
 ⑤薬害は生育抑制及び淡緑化。

3. その他特記事項

担当部科室名：農産研究所 作物栽培研究室，筑後分場 普通作物研究室

研究担当者名：福島裕助・田中浩平

研究課題名：稲・麦の雑草防除に関する研究

期 間：昭和62年～平成3年

予算区分：受託及び経常

既発表論文：なし

取りまとめ責任者名：田中浩平